

知っておきたい 国際協力②

開発協力という分野で外務省はどんな役割を果たしているのでしょうか? 毎回、テーマに沿った質問に外務省が答えます!



外務省開発協力広報キャラクター ODAマン ©DLE

今月のテーマ

国際協力でも重視される “連結性”ってなんですか?

答えてくれた人



外務省 国際協力局 政策課 首席事務官 久賀 百合子 くらが ゆりこ

2000年、外務省入省。総合外交政策局総務課、国際法局国際法課、内閣官房国家安全保障局、在米国日本国大使館などを経て2017年9月から現職。

Q1 国際協力と言う 「連結性」ってなんですか?

A1 人や物の流れを活発にするために、各国の生活基盤の拠点を つなぐことです。

港、空港、道路、鉄道などのインフラを整備して国内外の都市や拠点を つなぎ、地域として成長していこうというのが「連結性」の考え方です。日本は以前からASEAN諸国で連結性を高める支援を行ってきました。

たとえばASEANでは、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマーをつなぐ「東西経済回廊」と、その南部でベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーをつなぐ「南部経済回廊」で、高速道路や港湾の整備を行い、さらに回廊上の各地域を南シナ海とインド洋に結んでいます。

また最近では「在外公館レポート」(次ページ)でも紹介しているケニアのモンバサ港の整備とそこにつながる道路の建設を行っています。これは、ケニアとその周辺国の連結性を強化することにつながります。将来的にはモンバサ港が東アフリカの物流拠点となり、ケニアのみならず、東アフリカ諸国の経済成長につながっていくと期待されています。



TICAD VIで基調演説を行う安倍総理大臣 (写真提供:内閣広報室)

Q2 「連結性」が高まると どのような効果が生まれますか?

A2 人や物の流れが活発になれば、社会経済全体の 繁栄・発展につながります。

連結性を強化するためには、インフラ(道路や鉄道、空港、港湾など)を整備し、国や地域の主要な拠点を つなげる「物理的な連結性」、出入国や関税手続きを円滑化する「制度の連結性」、人材交流やネットワーク構築による「人的連結性」——この三つを同時に進める必要があります。それによって、地域全体での人や物の活発な流れが生まれ、社会全体の活性化が期待できます。

たとえば、新たな道路が つながることによって、遠隔地でも医療にアクセスしやすくなったり、教育の機会が増えたり、新たな雇用が創出され貧困が緩和されたりといった効果が期待できます。さらに国を越えて他国に通じる陸路や空路ができ、港湾につながることであれば、内陸国は自国の産品を国外に展開することが可能になります。

Q3 「自由で開かれたインド太平洋戦略」での 連結性強化の取り組みは?

A3 インドの高速鉄道整備をはじめとする事業が、各地域で進んでいます。

「自由で開かれたインド太平洋戦略」がカバーしている地域は広く、東南アジア、南西アジア、東アフリカなど各地域で連結性を強化する事業が進んでいます。たとえばインドでは、日本の新幹線システムを活用してインド西部に位置する最大の都市ムンバイと商業・金融センターとして栄えるアーメダバードを結ぶ高速鉄道整備を円借款で支援しています。この地域はインド全体の経済成長率を上回る成長を続けていますが、ムンバイ

とアーメダバード間をつなぐ陸上交通は道路のみで、移動に7時間近くかかっています。高速鉄道が開通すれば2都市間が2時間でつながり、輸送能力を格段に向上させることができます。さらに、日本で培われてきた分刻みの運行管理やメンテナンスなどの技術移転も行う予定です。鉄道の開通で、雇用の創出、人と物の移動の円滑化、周辺地域での開発や地域の経済発展がよりいっそう進むでしょう。

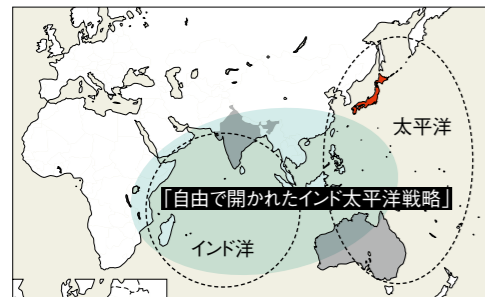


ムンバイ-アーメダバード間高速鉄道CGイメージ図 (写真提供:JICA調査団)

カンボジア唯一の大水深港であるシハヌークビル港の新コンテナターミナル整備の支援が決まっています。

これらの事業を通して各地域の連結性が強化されれば、地域全体が経済的に繁栄し、政治的にも安定します。それによって日本企業が円滑なビジネスを行いやすくなり、日本を含む世界の平和と繁栄につながります。そのためにも、日本はこれからもニーズのあるところに必要な支援を行っていきます。

これからは、海のつながりも重要になってくるぞ!



自由で開かれたインド太平洋を介してアジアとアフリカの「連結性」を向上させ、地域全体の安定と繁栄を促進する。

在外公館レポート from KENYA

東アフリカ地域のゲートウェイ

ケニアの首都ナイロビから500キロ離れたモンバサは、東アフリカ地域のゲートウェイとしてケニア国内の輸出入の拠点となっています。また、ケニアからウガ



「モンバサ港開発計画」で整備した新コンテナターミナル (写真提供:東洋建設)

ンダ、ルワンダ、ブルンジといった東アフリカの国々をつなぐ幹線「北部回廊」を通じて、周辺内陸国への物流の拠点としても重要な役割を担っています。

モンバサ港で取り扱う貨物は、燃料、鉄鋼材、肥料、食料品および中古車が大半で、おもにコンテナ貨物が増加しています。一方で、同港のコンテナ貨物取り扱い能力と将来の需要とのギャップが課題となっていたことから、日本は有償資金協力「モンバサ港開発計画」による新コンテナターミナル整備を通じ、コンテナ貨物取り扱い能力の増強を支援しました(2016年2月に完工)。

現在も同港でのコンテナ貨物量は増加傾向にあり、取り扱い能力を将来の

需要を上回ることが依然として課題であることから、同港の拡張整備を進めています。

日本は港の整備に関わる支援だけでなく、民間企業との連携により、同港におけるコンテナ貨物取り扱い能力の向上のための人材育成や、モンバサ港から北部回廊へと続く道路の整備を行っています。また、モンバサ経済特区開発のためのインフラ整備などに関わる協力も予定しており、北部回廊の玄関口となるモンバサの総合的な開発を支援することで、ケニアおよび東アフリカ諸国への投資促進や経済成長に貢献できるよう取り組んでいます。

(在ケニア日本国大使館 経済・経済協力班)